

— 目 次 —

- ばらのまちから
- 広がれ ローズマインド 『心に咲く花』

自然・環境

福山市の人口・大きさ・様子

- 1 福山市の人口と大きさ
- 2 福山市の様子
 - (1) 工場の多い所 (2) 田や畑の多い所 (3) 店の多い所
 - (4) 住宅の多い所 (5) 山あいの町 (6) 島の町
- 3 わたしたちのくらしと市の施設

福山市の位置と気候

- 1 位置
- 2 他地域とのつながり
 - (1) 近隣市との距離 (2) 交通網
- 3 気候



福山市の地形と自然観光資源

- 1 福山市の地形
 - (1) 地形の特徴 (2) 主な山と川
- 2 福山市の自然観光資源
 - (1) 県指定の天然記念物 (2) 自然の景観

芦田川

- 1 芦田川の特徴
 - (1) 芦田川の現状 (2) 芦田川にすむ魚
- 2 芦田川と福山市
 - (1) 芦田川と人々のつながり (2) 芦田川の洪水
- 3 環境改善の取組～芦田川の環境を改善するために～
 - (1) 芦田川ウエットランド (2) 芦田川環境マネジメントセンターの取組
 - (3) 福山市芦田川漁業協同組合
- 4 地域の川や海を守るためにできること

福山市の様々な地図

- 1 熊ヶ峰にのぼって
- 2 大谷山にのぼって
- 3 蛇円山にのぼって
- 4 交通の様子
- 5 土地の利用の様子

わたしたちの広島県

- 1 広島県の地形や様子
 - (1) 広島県の地図 (2) 広島県の土地の様子 (3) 広島県の様子
- 2 福山市と違う土地のくらし
 - (1) 庄原市高野町 (広島県で一番北の町) (2) 呉市豊町 (広島県で一番南の町)

産 業

田や畑で働く人々の仕事

- 1 米を作る仕事

- 2 野菜を作る仕事
 - (1) くわい作り (2) アスパラガス作り
- 3 果物を作る仕事
 - (1) ぶどう作り
- 4 その他の農産物を作る仕事

海辺で働く人々の仕事

店で働く人々の仕事

- 1 スーパーマーケット
- 2 商店街
- 3 福山市の商店 [商店のあるところ]

工場で働く人々の仕事

- 1 繊維工場
- 2 木材・木製品工場

ものづくりの町 福山

- 1 「ものづくり」の歴史
- 2 福山の伝統工芸
 - (1) 福山琴 (2) 備後絣 (3) 下駄 (4) 備後表
- 3 福山の工業
 - (1) 主な工業団地の分布 (2) 製造業の様子



オンリーワン・ナンバーワン企業

- 1 JFEスチール(株) 西日本製鉄所(福山地区)
- 2 株式会社エフピコ
- 3 常石造船株式会社
- 4 日東製網株式会社

広島県の伝統工芸

熊野町の筆作り

歴史・伝統文化

縄文～古墳時代

- 1 縄文・弥生時代の遺跡
 - (1) 沿岸部 (2) 芦田川流域
- 2 古墳時代の遺跡
 - (1) 二子塚古墳 (2) 大迫古墳 (3) 潮崎山古墳

飛鳥～安土桃山時代

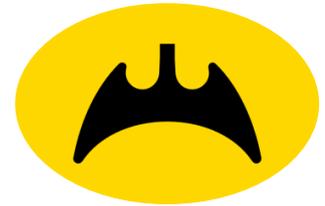
- 1 備後国
- 2 陸の道, 海の道
 - (1) 古代山陽道 (2) 古代山陽道の推定ルート (3) 鞆の津
- 3 明王院と草戸千軒
 - (1) 明王院の歴史 (2) 中世の港町「草戸千軒」
- 4 室町幕府と福山



江戸時代

- 1 福山城築城と城下町整備
 - (1) 江戸時代の福山城 (2) 明治以降の福山城 (3) 城下町の成立
 - (4) 上水道(旧水道)の整備 (5) 干拓事業について

- 2 海運の拠点 鞆
 - (1) 鞆の歴史ある町並み (2) 国際都市 鞆 (3) 鞆での受け入れ
- 3 神辺本陣と近世山陽道
 - (1) 神辺本陣 (2) 神辺本陣の建物の様子
- 4 寺子屋, 私塾, 藩校
 - (1) 寺子屋 (2) 私塾 (3) 藩校
- 5 飢饉, 自然災害と一揆
- 6 幕末の福山
 - (1) 鞆七卿落遺跡 (2) いろは丸事件



明治～昭和

- 1 廃藩置県と福山
- 2 福山市の誕生
 - (1) 野上・三吉両村の合併 (2) 市制施行 (3) 福山市旗章
- 3 福山大洪水
- 4 福山大空襲
 - (1) 空襲
- 5 戦後の復興
 - (1) 市場の開設 (2) 住宅の建設 (3) ばらのまち福山

市の移り変わり

- 1 干拓地の造成
- 2 市域の拡大と中核市移行
 - (1) 市域の拡大 (2) 中核市福山

福山城

- 1 福山城の歴史
- 2 福山城を代表する藩主
- 3 福山城のつくり
- 4 城下町の成立



昔を伝えるもの

- 1 祭りや行事
 - (1) とんど (2) ニ上りおどり (3) はねおどり
- 2 昔の建物と町並み

先人

- | | | |
|--|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 長谷川新右衛門 2 水野勝成 3 本庄重政 4 菅茶山 5 阿部正弘 6 窪田次郎 |  | <ol style="list-style-type: none"> 7 山本瀧之助 8 葛原勾当 9 葛原しげる 10 丸山茂助 11 井伏鱒二 12 木下夕爾 |
|--|---|---|

今・未来

くらしとごみ

- 1 ごみの分け方
- 2 ごみ処理の方法
- 3 わたしたちにできること

くらしと水

- 1 大切な水
- 2 水道の水はどこから
- 3 使った水のゆくえ

火災からくらしを守る

- 1 おそろしい火事
- 2 火事の起こった数と原因
- 3 消防の組織
- 4 消防の仕事
- 5 消防活動を行う特別な車両

交通事故からくらしを守る

- 1 交通事故の様子
- 2 交通事故が起きると
- 3 交通管制センター
- 4 交通事故をなくすために



ばらのまち福山

- 1 ばらのまちづくりの歴史
- 2 ばらのまちづくりの取組
(1) 「ばら」のあるくらし (2) ばらのまち福山
- 3 これからのばらのまちづくり
(1) 「ばら」に込められた思い (2) 世界バラ会議福山大会
(3) わたしたちにできること

よりよい福山を目指して

- 1 福山の未来予測
- 2 市民と行政による取組
(1) 協働のまちづくり (2) 「まちづくり推進委員会」の取組



働くということ

資料

Rose for Peace 折りばら

ふくやま未来づくり100人委員会って？

幸せあふれる30年後の福山の未来図

手話を知ろう・体験しよう

福山市 歴史年表

福山市のオンリーワン・ナンバーワン企業

福山市の親善友好都市

福山市の名誉市民一覧

福山出身の文化人の作品

分野別写真・資料提供先

序文 福山の歴史と芦田川の恵み

私たちの「ふるさと福山」は、人口約47万人、広島県で2番目、中国地方でも4番目の規模を誇る町です。様々な業種の工場が集まる臨海工業地帯を形成し、工業製品の出荷額で中四国地方第3位を誇るとともに、多くの「オンリーワン・ナンバーワン企業」をもつ「ものづくりの町」です。

その一方で、山野や内海に代表される豊かな自然や、歴史を感じさせる鞆の街並み、琴や下駄などの伝統工芸品など、昔から大切に受け継がれてきたものもたくさんあります。

福山の町がどのような歴史を経て、今の姿になったのか、時代をさかのぼって見てみましょう。

福山の大地は、今から約1万2千年前に、芦田川の流れによって運ばれた土砂が、堆積してできました。約1万年前の縄文時代には、人々はこうした大地の中でも、芦田川などの川の近くや海岸の近くに集落をつくり、狩りや漁をしてくらしていました。

古墳時代になると、大きな力をもった「むら」や「くに」ができ、神辺から新市にかけての地域や松永湾周辺には、当時の権力者の墓である古墳が残されています。

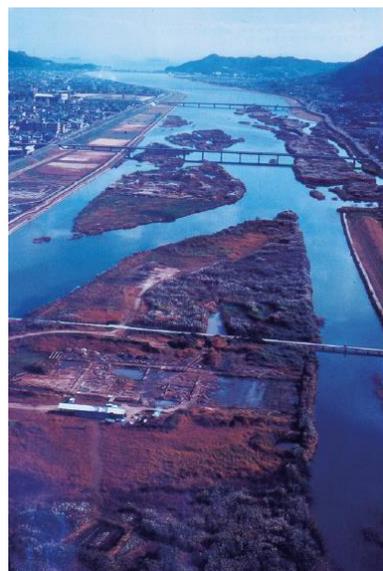
今から約1300年前の奈良時代になると、神辺平野に、都と九州を東西に結ぶ山陽道が通されるとともに、鞆が瀬戸内海を航行する船のための港として栄え、福山は陸上・海上交通の重要な場所となりました。

鎌倉時代から室町時代になると、芦田川の河口付近に瀬戸内海に面した港町として、草戸千軒の町が栄えました。草戸千軒の遺跡からは、中国・朝鮮の陶磁器やお金が出土し、世界に通じる町であったことが分かります。

また、草戸千軒の港に運ばれた品物は、芦田川をさかのぼって、内陸の町へも運ばれました。反対に、中国山地からも芦田川を使って、砂鉄が運ばれ、刀をつくる鍛冶が草戸や水呑、鞆に住み、多くの刀剣がつくられました。



〔郷分町の山から望む芦田川〕



〔草戸千軒遺跡〕

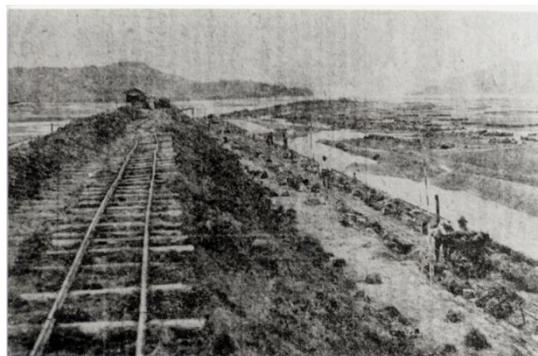
江戸時代になると、福山には水野勝成が藩主としてやってきました。当時の城は、神辺にあり、今の福山駅の周辺はすぐそばに海が迫る葦原でした。勝成は山陽道が通る陸路の神辺と、瀬戸内海に面した港町鞆の中間にあたる常興寺山に巨大な城を築城することを決め、城や城下町の建設に取りかかりました。工事は、芦田川の氾濫による大洪水などにより困難を極めましたが、勝成は、氾濫防止のために芦田川の流れを変えたり、堤防を築いたりしながら開拓を進めていきました。

また、井戸を掘っても塩水が多かったため、芦田川の水を町に引き込み、上水道を整備したり、瀬戸内海から城までの入江を整備したりしたほか、海を干拓し農地を増やすなどして城下町の整備を行い、今の福山の基礎を築いていきました。

産業においても、江戸時代から明治時代にかけて、様々な福山の特産品が生み出されました。松永の塩と下駄、沼隈のい草と畳表、塩分を含む干拓地でも栽培できた綿花を原料として作られた備後緋、後に生産量日本一になるくわい、どれも、当時の人々が、福山の気候風土の中で、生活を豊かにするために生み出してきたものです。これらは現在でも、福山の伝統的な特産品として受け継がれてきています。

明治時代以降には、近代化の流れに乗って、備後緋が芦田から新市周辺の地域で盛んに生産されるようになり、福山は繊維の町として発展していきました。

1916年（大正5年）の市制施行間もないころ、大雨による芦田川の大洪水が発生しました。これまでも、芦田川の洪水に人々は苦しめられてきましたが、このときの被害は大変なものでした。この水害後、都市としてより発展するために芦田川の堤防を高くするなど本格的な河川改修工事が計画され、芦田川の洪水に負けない町づくりが進められました。



〔芦田川河川改修工事の様子〕

第2次世界大戦の末期、1945年（昭和20年）8月8日には、福山空襲により市街地の8割が焼失してしまいます。人々は必死に町の復興に力を注ぎました。南公園の近くに住む市民が、公園にばらの苗1000本を植え、復興のシンボルとしたのが、「ばらのまち福山」の始まりです。

1950年代、福山は繊維産業を中心に「ものづくり」の活気にあふれていました。そして、1961年（昭和36年）、世界最大級の日本鋼管（株）福山製鉄所〔現 JFE スチール（株）西日本製鉄所（福山地区）〕の福山進出が決定し、日本最大級の鉄鋼コンビナートが誕生しました。

進出決定の決め手は、埋め立てによる広大な工場用地と、芦田川から豊富な工業用水を確保できることでした。

これをきっかけに、福山は軽工業の町から重工業の町へと^{てんかん}転換していきます。鉄鋼関連の会社が次々と進出して、人口も急増し、さらに、交通網も^{もつ}整備され、病院や大型商店などが増えるなど都市化も進んでいきました。

こうした福山の町を築いてきた人々の暮らしに欠かせなかったのが「芦田川」です。福山を生きた先人は、芦田川の流れによって作られた大地に住み、芦田川の水の^{めぐ}恵みを受け、生活を豊かにしてきました。時には洪水など、芦田川の水に苦しめられることもありましたが、その都度人々は、知恵と力を結集してその苦難を乗り越えてきました。

私たちがくらす福山の自然環境・産業・歴史・伝統文化などは、福山の先人が芦田川からの恵みを受けて創り出してきたものなのです。

今、芦田川は、町の発展や工業化と引き換えに、水質の悪化をまねいています。そのため、多くの人々が、これからも芦田川から多くの恵みを受け続けられるよう、清らかな芦田川を取り戻そうと努力を続けています。



〔明王台から望む、朝日と芦田川〕

みなさんは、これから福山の様々な資源や先人の知恵や努力について学習を進めていきます。様々なものを知り、体験し、^{じっせん}実践することで、自分のふるさとに対する愛着と誇りが芽生えることでしょう。その愛着と誇りは、必ずみなさんの自信となり、将来の夢や希望を^{かな}叶える原動力となるはずです。

芦田川の水が、瀬戸内海を通じて世界につながっているのと同じように、みなさんの^{かつやく}活躍する場所や可能性も無限に広がっています。ふるさと福山を学ぶことを通して、視野を広げ、大きな世界にはばたいていくことを願っています。